

# 若年技能者人材育成等支援事業(特にものづくりマイスター事業)の当面の推進の考え方

## 【事業の目的・狙いと推進の基本的考え方】

- 技能検定、技能競技大会等、広く技能振興関連施策・事業の「ブリッジ」機能を果たすことによる相乗効果（例：技能検定や技能競技大会課題を用いた実技指導→検定合格力、技能競技力向上→「結果」目に見えることによる技能習得の意欲向上等）
- 特に、若者へのものづくりの魅力、意義に関する理解深化に資する指導や啓発の重点的展開、ものづくり分野への入職、優れた技能を備えた若手育成の契機
- こうした事業目的を前提に、広く関係者への事業意義の浸透・定着に必然的に一定の期間を要すること、本事業がものづくりマイスターの蓄積、関係者への浸透等の基盤が整備されなければ、推進が図られたい構造にあること等にも鑑み、マイスター認定数の蓄積、事業を通じたニーズの把握や関係者への浸透等を図った上で、必要な見直し、重点の移行等を段階的に進める必要がある。

|       | i 事業全体の重点   | ii ものづくりマイスターの認定の重点等  | iii ものづくりマイスターの実技指導派遣の重点  | iv 備考  |
|-------|---|---|---|--|
| ①25年度 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○関係者への事業の意義浸透、連携基盤の確立</li> <li>○（わかりやすく訴求力ある）技能競技大会との連動重視</li> <li>○その他事業全般の基盤整備、技能振興策の普及への貢献</li> </ul>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>○目標に沿った総量の確保</li> <li>○需要・供給が全国共通で高い基幹職種（機械加工、建築大工等）等の重点的開拓</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○企業派遣の好事例創出・発信</li> <li>○これらを通じた地域の派遣ニーズの把握・分析</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ものマイ推進会議発足：関係機関の連携、課題共有化の基盤</li> </ul> |
| ②26年度 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○「めざせマイスタープロジェクト」として、学生生徒の入職促進に資する取り組み重点化、このための学校等との連携基盤強化（中央、都道府県各段階で）</li> <li>○技能検定の活用促進との連動重視</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○初年度事業運営を通じ把握した指導派遣のニーズの高い職種（でマイスター認定が少数に止まる分野）の重点的開拓</li> <li>○マイスター認定要件の見直し（継続検討：技能士、技能競技大会入賞以外の技能水準を客観評価する基準《公的資格等》活用）</li> <li>○学校教育における具体的位置づけの上、これに応じた重点的開拓</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○文科省、教育委員会等との連携強化を通じた、中学高校等への重点派遣、特に技能検定3級の普及、合格促進に資する指導に重点*企業派遣とのバランス確保にも配慮</li> <li>○学校派遣の好事例創出・発信</li> <li>○実技指導派遣の成果のより客観的な評価・フィードバック方法の検討・開発</li> </ul> |  |

事業全体の基盤整備、浸透、量質両面に亘る進化

27年度以降にも跨がる課題(想定)

○日本再興戦略でも、ものづくり人材育成強化が重要な課題と位置づけられていることを踏まえ、このための重要な指導のリリースたり得るものづくりマイスターの総量の拡大、指導力の向上、活動の場面の拡大（キャリア教育、若年者雇用対策の観点からの活用を含めて）

○マイスター認定（累積）の地域、職種等の観点からのバランスの確保  
 ○マイスター派遣指導等の評価方法の確立、好事例の普及等を通じた指導の質の確保・向上